

# 令和5年度三木市立図書館協議会（第2回）会議録

## 1 開催日程

- (1) 開 会 令和6年1月30日（火）午後1時30分  
(2) 閉 会 令和6年1月30日（火）午後2時40分

## 2 場 所 三木市立中央図書館 1階 視聴覚室

## 3 議事日程

- 第 1 報告事項 令和5年度図書館事業について  
第 2 協議事項 令和6年度図書館事業について  
第 3 協議事項 その他

## 4 出席者

会 長 職 務 代 行 員	長	西 中	記 美 代
委 員		藤 原	美 佐 子
委 員		高 森	伸 彦
委 員		上 村	和 美
委 員		香 月	尚 美
委 員		井 上	博 子
委 員		平 野	照 子

## 5 欠席者 なし

## 6 事務局出席者

図 書 館 長		伊 藤	真 紀
中 央 図 書 館 主 査		大 西	恵 美
青 山 図 書 館 司 書		辻 本	美 保
吉 川 図 書 館 司 書		佐 伯	あ ゆ み

## 7 傍聴者 なし

\*\*\*\*\*

## 開 会

会長は、令和5年度第2回三木市立図書館協議会の開会を宣言した。

\*\*\*\*\*

### 日程第1 報告事項 令和5年度図書館事業について

○事務局は、令和5年度に実施した図書館事業について説明した。

(委員) 図書館では様々な活動をしていて、本当に驚かされる。今年度から始まった、小学校向け図書の貸出「わくわくとしょかんボックス」を全学年で貸出してもらっており、子どもたちに大好評である。読んだよシールを貼っていくのが楽しみで、どんどん貼ったシールの数が伸びていくのが、廊下に置いてあるそのボックスから、手に取るようにわかる。教職員からも「ぜひ来年度も」という声が随分上がっている。子どもたちにとっては、新しい本との出会いが新鮮であり、忙しい教職員にとっては、毎回違う本を選書していただけるのでありがたく、とてもよい取組だと思う。

事務局の説明の中で、10代前半の利用が課題だとの話があったが、どう思われるか。

(委員) 13歳以降の若者世代の貸出冊数が極端に少ないのは理解できる。中学生ぐらいから自分の時間が減り、毎日本当に忙しい。だからこそ、決められた時間に確実に本が読める機会を提供できる、学校での「朝の読書」の時間を持つことは意味があり、本校では3年前から全校一斉読み聞かせを継続している。読書は好きとか嫌いとかではなく、慣れではないかと思う。子どもたちにその時間を提供すれば、自然と読みだす。また、「どんな本でもよいから」と本を自ら選ぶ機会を提供すれば、前向きに主体的に選びだす。読書は「慣れ」と「機会」であるという風を感じている。確かに忙しい毎日だが、そうやって育ってきた子は、将来自ら読書を楽しむ感性が身につけているのではないかと思う。

(委員) 中学生のときはやはり忙しいので、本を読む時間はないと思う。しかし、少しでも読み聞かせを口頭で聞いていたら、将来そのことを思い出し、興味が持てるようなときが、きっと来ると思う。

(委員) 図書館でトライやる・ウィークの中学生を受け入れたり、高校生のおはなし会や俳画展示等様々な企画をしてくれるのは素晴らしい。今後も続いたらいいなと思う。

(委員) 感想だが、図書館がとても綺麗で、子どもたちに行っていた図書館とは全然違う。本を読まなくても楽しいし、落ち着ける空間なので、本が好きとか関係なく立ち寄りやすい空間があることが、すごくありがたいと思う。

(委員) 障害福祉課と連携したり、いつも新たな試みにたくさん挑戦しているが、何か声を拾ってのことか。

(事務局) 「図書館定期宅配サービス」や「障害者等用データ送信サービス」は、障がい者等の読書バリアフリー推進の一環で事業を実施している。障がいの有無にかかわらず、すべての市民に図書館サービスを届けるのが使命である。

(委員) 音声での読み上げについてもデジタル化が進んでおり、落ち着いて本を読もうとするが、なかなか字が追えない子や、苦手意識がある子もいるので、そういう子どもたちにとっても、本の世界に浸ることができるので、ありがたいと思った。

## 日程第2 協議事項 令和6年度図書館事業について

○事務局は、令和6年度実施予定の図書館事業について、資料1のとおり説明した。

(委員) 令和7年度の図書館システム更新に合わせて、デジタル化を進めていくとのことだが、学校図書館との連携は考えているか。

(事務局) 学校教育課等と連携して進めていきたいと思っている。図書館が持っている調べる力、ツールを学校の先生方にも知っていただき、ICT教育に活用していただきたいと考えている。

(委員) 各学校や図書館の蔵書が電子化され、繋がっていたらとても広

がると思う。忙しくてなかなか足を運べない中高生の子どもたちにとっても、データでたどっていくことができれば便利である。  
大学でのデジタル化はどうか。

(委員) 大学では、電子教科書等は進んでいる。大学図書館で学生が直接使用するのは、新聞記事のデータベース検索関連が多い。特にコロナ禍に、紙媒体の新聞を家で取っていない学生が多いのと、レポートを書くときに図書館に行けないので、インターネットに頼っていた時期があり、そのときに若干データベースを増やした。図書館アプリはよいと思う。大学図書館もアプリ化すれば、学生も使うのではないかと思ったが、大学はまだそこまで至っていない。

(委員) 時代はどんどん進歩していっているので、図書館のデジタル化が進むよう、様々な調査研究をされることを期待する。

日程第3 協議事項 その他 なし

\*\*\*\*\*

閉 会

会長が、令和5年度第2回三木市立図書館協議会の閉会を宣言した。